



第6回 (仮称) 遠軽豊里 IC 周辺施設基本計画検討協議会 議事概要

平成28年4月28日(木)午後1:00~

遠軽町役場 3階 中会議室

1. 開会

- ・ アドバイザー(株)北海道宝島旅行社鈴木社長、桑原プランナー紹介

2. 座長の選出及び挨拶

- ・ 他薦により観光協会渡辺会長が選出

3. 話題

(1) 報告

- ・ **協議会の新名称について**

(事務局説明)

- ・ 開発局より正式に IC の名称が発表されたことに伴い、また、4月28日をもって基本設計が完了し、5月から実施設計が始まる中で、引き続き協議を進めるにあたって、本会の名称を改めるもの。
旧：(仮称)遠軽豊里 IC 周辺施設基本計画検討協議会
新：提言書に基づき「遠軽 IC 道の駅検討協議会」としたい。⇒ 承認

- ・ **前回協議会の結果について 【参考資料1】**

(事務局説明)

- ・ 中身についてはお目通しいただきたい。

- ・ **前回協議会からの経過について**

(事務局説明)

- ・ 平成27年12月14日(月)提言書の手交式が行われ、高橋座長から佐々木町長に提言書が手交された。
- ・ 平成28年3月24日(木)遠軽「道の駅」開業準備にかかるアドバイザーの選定のためのプレゼンテーションを受けて、(株)北海道宝島旅行社に決定し、観光協会と業務委託契約を結ぶこととなった。今後は遠軽 IC 道の駅を考える会の専門部会や幹事会にアドバイザーとして参加いただき進めていく。

(2) 議題

- ・ **管理運営方式の再検討について 【資料1】 【参考資料2】**

(事務局説明)

- ・ 提言書のp9「第3章 提言 3. 運営のあり方 (2) 管理・運営者において、「管理運営主体としては、町が直営で行う方法と指定管理者制度等を利用した公設民営で行う方法が考えられます。」とされている。
- ・ p10の上から4行目からあるように「今回検討している「中心施設」における道の駅とスキー場のロッジ機能の一体的整備は、利用の効率化、相乗効果を期待しており、施設全体の管理運営は1つの組織が統轄することが望まれます。」との提言を受けた。
- ・ 管理運営方式について一定の公益性を保ちつつ民間のノウハウを活用した施設運営を行うため、指定管理制度を導入することが適切だとされていることから、その方向で考えている。
- ・ 一方、提言書では、道の駅とスキー場は別途管理運営を行う「二元管理方式」を提言されていたが、事務局含めた幹事会で検討した結果、資料1のようなメリット・デメリットがあると考えられることから、「一元管理方式」とする方向が望ましいと考える。
- ・ 経営面における一元管理のメリットとしては、利害等の調整が不要であること、意思や方針決定の迅速化、収益を一体で管理できる、スタッフの融通が可能となり、通年での雇用も可能と考えられ、一体となった宣伝・イベントの開催がスムーズに可能となるといった事が考えられる。



- ・施設管理面における一元管理のメリットとしては、清掃や警備などの保守業務が一本化できる、一体での施設運用が可能となる、責任の所在が明確化される、渉外の本化が可能、事務所や倉庫スペースの共用化が可能となる、といった事が考えられる。
- ・一元管理のデメリットとしては、業務分担をしっかりと行わないと現場が混乱する恐れがある、また、担うべき業務の範囲が大きくなる、といった事が考えられるが、メリットの方が大きいものとしてとらえ、提言書からの変更ではなく提言書の考え方を踏襲しつつ、箇所に応じて考え方を一部変えて、進めていくものである。

(座長)

- ・事務局での検討結果、また、本州への視察の際に聞いた話からも、一本化した方がメリットがある。司令塔は一つという考えのもと、その方向で進めていきたい。

(委員)

- ・コスト面では一元管理が合理的だが、それぞれの得意分野で伸びる部分が縮小されてしまいデメリットの一つとなるのではないかと。スキー場は今までも努力をしながら、夏も冬も誘致をしてきた中で、そちらの力が削られてしまう気がする。一元管理の中でも、部門を分けて採択という方法もあり、得意分野を伸ばしていくという考え方でいけば、当初の管理者1, 2のようなことで進めた方が、効率が良いのではないかと。コスト面では合理的でも、この先の事業を潰しかねないと思うが、検討いただきたい。

(座長)

- ・各セクションの長が責任を持ってやるということで、スキー場で今までやってきたことや方針が崩れるといったことは一切ない。トータルで道の駅が成功するためには一元化してやらなければならない。独自の部分は独自に進めて、それを統一していく。スキー場としての自主性は認めていく。

(委員)

- ・指定管理の中で、採択の条項が出てくると思うので、そういうことも可能にしていきたい。

(座長)

- ・司令塔は一つという中で、意見を調整していく。

(委員)

- ・指定管理の中で採択できる業務は限られてくるので、その点も緩和していただきたい。そうすれば、うまくいくのではないかと。

・ 基本構想・テーマについて 【資料2】

(事務局説明)

- ・「ゲレンデと遠軽とオホーツクの魅力を発信する道の駅」のコンセプトのもと、整備計画における共通認識を持つため、提言書に基づき、資料3のとおり「遠軽IC道の駅基本構想(案)」を作成した。
- ・この基本構想では提言書に基づくコンセプトのもと、整備の考え方を示し、「ホーム・えんがる」を共通テーマに据え、その中で「女性のやすらぎスペース」を共有イメージとして道の駅づくりを進めていくもの。
- ・また、旭川紋別自動車道遠軽ICに隣接していることでの利点や役割、道の駅機能とスキー場ロッジ機能を兼ねた「中心施設」としての整備概要、今後の運営を検討する「遠軽IC道の駅を考える会」とコンセプトとの関係、そして遠軽IC道の駅が描く夢について、基本構想として、示している。

(座長)

- ・方向性として認識していただき、後ほど、道の駅基本設計図についての中で議論する。



・ 道の駅基本設計図について 【参考資料3】

(事務局説明)

- ・ A案及びB案については、提言書に基づき作成している。C案については、提言書に基づいた項目を、より詳細に盛り込んだ最新の図面となっている。内容は、防災機能やレストラン・フードコート、観光及び道路情報など、それぞれの用途や機能について、具体的に旗上げして表示している。
- ・ 幹事会においては、基本構想に基づき、先ほど申し上げたテーマとイメージに沿いながら、トイレの拡充やレストランとフードコートを一階に集約し、2階を多目的に使用する形などを検討しており、図面の作成をしているところである。
- ・ 今後、方向性が固まるにつれ、図面も変更していき、8月末を目途に固める。その際は、またこのような場で報告させていただく。

(座長)

- ・ A案は弓なりの形状で、矢印の方向ではゲレンデの斜めの方を向いている。C案は弓なりを逆にし、正面を向いているが、駐車場が狭くなっている。

(委員)

- ・ C案の駐車場は何台くらい削られているのか。

(事務局)

- ・ 10~20台程度。配置計画が進んでいけば、そのあたりも固まってくる。これらの図面はたたき台であり、色々な意見を出していただきたい。

(座長)

- ・ 図面を見て、アドバイザーとして参考意見はないか。

(アドバイザー)

- ・ 場所も決まっているし、どういう目的かは議論されてきている。夏の利用を考えれば、C案がウッドデッキなど、場所をうまく使おうとしている。

(事務局)

- ・ C案の大型車庫というのは、バスではなく、スキー場の圧雪車等の大型車両を入れる車庫である。

(アドバイザー)

- ・ 除雪の関係は影響はないか。スキーヤーは2階から出入りする。先ほどスキー場を見てきたが、夏場も整地しないとイケない。冬場も圧雪をつなげてスムーズにスキーヤーが滑ってこられる、ニセコの高いスキー場のようなイメージだと思う。それで言うとメインはスキー場向きに広い方が、使い勝手が良い。

(座長)

- ・ スキー客の立場で考えるとどうか。

(委員)

- ・ スキー場だけのことを考えると、A案が良いと思う。道の駅側を考えるとC案が良いと思う。

(アドバイザー)

- ・ 景色が良いのはゲレンデの方。日差しはゲレンデ側から入るが、光をとるのは広い方が良いので、A案の方が自然。ただ、一番変だと思うのが、一番景色の良いゲレンデに向いているのが、会議室とか事務室のお客さんが見えないところになっていること。また、南向きなのに、物販スペースがゲレンデ側にあり、これでは物が悪くなってしまう。

(事務局)

- ・ A案はゲレンデ側に膨らんでおり、平場スペースが狭い。C案のように逆に弓なりになると、反っている分だけ、平場スペースを広くとれる。そう言った部分も検討材料にしていきたい。

(委員)

- ・ A案にしてもC案にしても、スキー場のコースに変更はないのか。

(事務局)

- ・ コースについては大きく変えるといった事はない。



(委員)

- ・催事スペースについて、建物の前に屋根をつけていただければ、雨天時も使える。そういった場所がほしい。また、スキーヤーがスキーを持って正面から入ると混雑するので、建物の横に階段をつけられないか。⇒C案は左側に階段があるが、A案にはついていない。
- ・電気の配線や排水もあれば催事に対応できる。

(座長)

- ・どこか参考になるところはなかったか。

(事務局)

- ・ニセコは建物があって、屋根がある。そこまでフロントスペースは大きくない。事務局内では、臨時でテントを出すなどの話は出ていた。母屋から屋根を伸ばすのではなく、フロントスペースが大きいので、テントを設置すれば良い。

(委員)

- ・雨が降っていると、お客さんが立ち止ってくれずに、中に入ってしまう。屋根があると、車から降りてすぐに見ることができる。

(アドバイザー)

- ・催事の頻度によるのではないか。

(委員)

- ・催事は極力、多くしたいと考えている。

(委員)

- ・催事やスキー場、道の駅のどの機能を重視するか、色々協議していくが、その際の土地スペースについて、広げられるのか、これが限度なのか。大型車5台くらいは入るようにしたい。道の駅だと考えたときに大事なことで、どのくらいお互いのスペースのやりとりが可能なのか。

(アドバイザー)

- ・何のために道の駅を作るのか明確でない。例えば、「女性のやすらぎスペース」、「ホーム・えんがる」と言いながら、フロントスペースにトラックをつけるということはないと思う。ここまでコンセプトが決まっているのならこれに準ずるべきだし、まだ変更できるのであれば、新たに決めれば良いし、そこがまだ見えていない。
- ・ロックバレースキー場は、この辺りでは人気のあるスキー場だと聞いている。道の駅にスキー場のロジックがつくということは全国でもない。そういうところはニュースにしていきたい。スキーヤーに幸せな道の駅に絞っていけば、道の駅機能は削ぎながらスキー場を重視しなければいけないのかもしれないし、そうじゃなくて、暴風雪が激しくて防災機能を重視するのなら作り方も変わる。
- ・オホーツクの入口ということでいけば、今回、木古内の道の駅もそのコンセプトだが、後ろに道南・西部の松前・江差・奥尻などの9町村の情報でかなり場所がとられている。加えて、インフォメーションセンターに人を置かなければならない。それをしないでポスター掲示だけであれば必要ないが、そのあたりはどうなのか。

(委員)

- ・いずれにしても、スキー場をしっかりとやりたい人もいるし、道の駅派の人もいる。物販や情報発信含めて、三つ巴の状態。妥協点ではないが、最も良い方法は何なのか結論を出さないといけない。

(座長)

- ・多目的に満足させようとする、ほとんどの場合失敗している。

(アドバイザー)

- ・ゲートウェイ型だとか地域型だとか、国は言っているが、メインをどちらかに決めないと、今の話を聞いているとスキー場かと思うが、次に考えないといけないのは、夏のアクティビティの充実。とにかくここに車を止めて遊ばなきゃという場所をつくるといった、スキー場優先ならそちらに進んでいく。
- ・しかし、これまでの議論では「ホーム・えんがる」「女性のやすらぎスペース」となっているので変



わってくる。

- ・物販も、オホーツクの市町村のパワーがどれくらいなのか、負担金をとるのか、物産協会を間に入れるのか、販売員は誰がやるのか。遠軽の道の駅であり、そういった点を掌握しないと、考える会や事務局がどう進めて良いかわからなくなる。

(座長)

- ・この大きさの中でやるのであれば、スキーをメインにしながら、夏場のアウトドアのアクティビティをどうするか、絞っていかないといけない。

(アドバイザー)

- ・当初は2階にフードコートがあり、1階にはレストランがあり、それを1階にまとめようという話になったと聞いた。スキーヤーはスキー靴を持って入って2階で着替えて滑って、ご飯を食べる時はスキー靴を脱がなきゃ下に降りられないのか、外の階段を使うのか、スキー客がメインならガラッと変わってくるのかと思う。

(座長)

- ・設計段階では、2階はスキー客用のフードコートで1階レストランとは入り乱れないという考えか。

(事務局)

- ・幹事会で協議している現在の案があるので図面を配付する。1階に食部門を集約し、2階は平場を大きく取った図面となっている。

(座長)

- ・物販、直売関係のスペースが少ないのではないかと。飲食スペースが大きいけど、どうやってお客さんを引っ張ってくるか。

(事務局)

- ・2階にあったレストラン部分の面積をそのまま1階に持ってきているが、集約したことによりもっと縮小できると思う。それにより物販、直売スペースも広げられる。

(アドバイザー)

- ・木古内と北斗にもそれぞれ物販コーナーがあって、圧倒的に売れるのは北斗の方だと予想されたが、実際調子が良いのは木古内の方。品揃えが全然違うしスペースもかなり広い。更には、木古内の道の駅のレストランは観光客よりも、函館市民を対象にしている。最初から観光客メインではなく、函館の人が食べにくるように、山形の有名な料理人を呼んで「わざわざ食べにくるレストラン」といった作り方をした。
- ・鹿部は、漁協の女性部が炊き立てのご飯にタラコをのせて出しているのがウケている。遠軽がオホーツクの玄関口といった時に、これでは小さい気がするし、スキーヤーが1,500円のランチを食べるかという食べないと思う。ある程度、ラーメンやカレーなどの「スキーご飯」といったものになる。遠軽町民や湧別、この辺の町からみんなが食べにくるレストランにするとすると、グレードを上げないといけない。スキー客用と一般客用は別物である。

(座長)

- ・スキー客は弁当を持ってきている方が多いのか。

(委員)

- ・前から見ると少ない。5年以上前はお茶をポットで持ってきたりもしていた。

(座長)

- ・食べてもラーメンやカレー程度のもの。このスペースがごった返すくらいのもを出さなければ経営していけない。

(委員)

- ・田舎と都会の違いもある。大きいスキー場に行ったら1,000円以下の食べ物は無い。
- ・ここで1,000円超えるのは厳しい。500円前後か。



(座長)

- ・出すものを決めていって、場所も決めていくしかない。物販もどれだけのものを置くか。道の駅の楽しみは食べ物と買い物。

(アドバイザー)

- ・普通の道の駅だったら食べ物と買い物の2つなのに、ここは3つ目にスキー場がある。

(座長)

- ・スキー客はスキーをしに来るのだから、メインは買い物や食べ物ではない。結果、安くて美味しければ食べる。

(委員)

- ・安くて美味しい食堂があれば、そこでまた食べるようになる。1回食べてみて、高くてもまずいと、次からコンビニで弁当を買ってくる。そうすると悪循環になる。営業時間によるニーズをつかんで続けることが必要。道の駅のわざわざ来るレストランとは違って来る。どっちも取ってしまうと中途半端なものになってしまう。

(アドバイザー)

- ・街中にも美味しいレストランがあると聞いているが、ここで美味しいレストランをつくったら流行るかということ、かなりのものをつくらないと流行らない。それだったら、安くて美味しい、ドライバーでも家族連れでもみんな好きなものならば悪くない。
- ・大型バスが必ず寄るようなという話があり、正しいとは思いますが、年中走っているわけではなく、トイレの数だとかの話になる。高速上にある砂川などは話が別だが、美瑛は街中に小さく建てて、バスの駐車場も無いし、トイレも少ない。でもおいしいレストランがあり、いつも混んでいる。美瑛の道の駅は、観光客を街中に引っ張って、地元の飲食店にお客さんを流すことを目的にしている。
- ・今回の遠軽の道の駅の一番の目的は、皆さんの話を聞いているとスキーなのかと思う。スキーをメインに置きながら、どこまでやるか。石狩の厚田で議論しているのは、コミュニティスペースとして、地元の住民が集まって蕎麦打ち教室をやるような場所として、観光客よりも公民館のような役割。そういった話はここでは出ていない。
- ・「女性のやすらぎスペース」と聞いて想像するのは、トイレのパウダールームを大きくしたいのか、授乳コーナーを作りたいのか、メッセージはきれいだが、詳細が見えてこない。

(委員)

- ・高規格道路が先に延びることは間違いないが、相当時間がかかる。今、網走・北見方面から高規格に乗って札幌圏に入る方が増えている。時間的にも安全面も良いらしい。遠軽北見道路や北見から足寄に抜ける道が完成すれば話は変わってくるが、10~15年は開通しないと思う。
- ・大型トラックが休むのに中継点として、時間的にも距離的にも良い場所らしい。そういうドライバーのことを考えていくのはどうか。スキー場と道の駅とに相容れない考えかもしれないが、そういうことも取り入れていけば、長距離ドライバーにも親切なものになるのかと思う。

(アドバイザー)

- ・安くて美味しいご飯は、ドライバーも求めている。

(委員)

- ・スキー客の食事の単価としては、500円くらいの方が良いのではないかと。大人でスキーを楽しみに来て、食事をする客は人数的には多くはない。

(アドバイザー)

- ・高速道路を通るトラックは多いのか。

(委員)

- ・多い。近くのコンビニエンスストアでは、常に大型トラックがいるということで、防犯効果があり、今まで事件・事故が発生していないという情報もある。
- ・台数を調べようと思えば、陸運なりトラック協会などの組織から、近年の交通量を聞くことはできるのではないかと。



(座長)

- ・スキー場の話に戻るが、ロケーションはどうか。現状のようにゲレンデに真っ直ぐ向いていた方が良いと思うが。A案～C案でパターンを決めて何をつくっていくかを決めないといつまでたっても進んでいかないのではないか。

(委員)

- ・個人的にはA案。多少ずれていても、こういう弓なりの方が、ゲレンデ側を全面に見ている。
- ・風が結構強く吹く。図面の右上の方から建物の方向に向かって吹く風が80%以上。C案だとどういった影響があるか不安。ロッジ前に吹きだまるのではないか。

(座長)

- ・A案とC案で違うのは基本的にロケーションだけ。スキー場側で使い勝手が良いというA案でいけば、フロントスペースや駐車場が広がるし、それはそれで良いこと。

(委員)

- ・駐車場のことはあまり気にしていない。C案にしてスペースが10台減っても、そんなに影響はないのではないか。
- ・使いやすいのはA案だと思う。

(座長)

- ・方針を決めていかないと仕方ない。

(事務局)

- ・ゲレンデ側の平場スペースが、弓なりが反対になることによって変わってくる。もともと平場スペースがないスキー場なので、それを確保するということでのC案となっている。

(座長)

- ・問題点が出てきたので、これをベースに実行部隊がまとめていくしかない。

(アドバイザー)

- ・考える会が3つ設置されているが、体験部会はそんなに焦らなくても良い。情報発信部会もオホーツクのどこまでのエリアで情報発信するのか、コンシェルジュは置くのか、DMOという言葉を使う国は使っているが、観光地域づくりの公営化組織を置くのか、色々なことができると思う。
- ・8月に実施設計に反映する前に、ある程度そこに入る可能性のある人の意見を聞かないと、意見を反映できないと聞いている。すると、この道の駅で飲食サービスなり物販サービスなりをするその人をどう決めるのか。絶対に協力するという約束事はプロポーザルで言う仕様書になってきて、自分は頑張りますという方が、コンペに参加してくれるようにしないと決まらない。その人たちの話を1か月一緒に聞いて、実施設計に反映する。

(委員)

- ・それしかないのではないか。

(アドバイザー)

- ・考える会の進め方が3つ書いてあるが、産業・食部会と体験部会、情報発信部会は全く別物である。

(事務局)

- ・まず施設として、どこまで何を決めなければいけないか、実施設計に反映させるために、食・物販・ロッジの決まっているスペースについて先行して決めていく。夏場利用はまだ時間があると考えている。

(アドバイザー)

- ・スキー場はプロがいるわけだし、夏のアクティビティは、斜面を使うということで限られてくるので、ある程度イメージができて目途がつくのではないか。

(委員)

- ・子育て世代としては、2階のスキー場を見れる範囲が狭いと感じる。事務室がゲレンデを向いている必要はない。子どもを見守る親御さんにとっては、見づらいのではないか。



(座長)

- ・部会がまだ立ち上がっていないので、まずはメンバーを決めること。
- ・問題点がわかってきた。第7回、8回と同じ話をしても進まないの、どういう方針でいくのか決めないといけない。それについては、今回は町長も不在なので、各団体の長含めてアドバイザーの意見を聞きながら、方向性やレストランのレベル等、成功するためにはこうしなければダメなんだという骨子を作って、その骨子の中で部会を進めていく。失敗は許されない。
- ・レストランについては設計業者含めて勉強していく。最終的にどういう打ち出し方をするかは、町長含めて近日中に方針を決定していく。それを第7回に打ち出して、進めていくという方向である。

(事務局)

- ・資料2において、共通テーマとして「ホーム・えんがる」とイメージの共有ということで、「女性のやすらぎスペース」と提示したが、今一度議論いただきたい。他の道の駅とどう差別化していくかという部分で、ロッジ機能を兼ね備えている点で言えるが、表裏一体で弱点ともなり得る。その弱点をどう補っていくかを視野に入れながら、スキー場を開けていない時期は道の駅が主体となってやっていかなければならない。そのあたりのバランスを含めて、「ホームえんがる」、「女性のやすらぎスペース」ということで幹事会で出ささせていただいた。これでよろしいか含めた上で、皆さんのイメージがまだバラバラだと思うので、そのイメージ共有でもって、レストランが必要なのか、1階と2階に飲食機能が必要なのか、審議していただければと考えている。

(座長)

- ・イメージがあまり湧かないが、中途半端なものは絶対にいけない。絶対に美味しいもの、買いたいものがない限り、中に入ってもすぐ出てしまう。

(アドバイザー)

- ・これが柱となり、全てのことをこれに寄せていくことになる。スキー場や長距離ドライバーでなくて、アットホームな女性が安らげる道の駅を作ろうと骨子を決めたら、この方向で考えていかないといけない。それにより、かなり捨てるものも出てくる。

(座長)

- ・具体的にどういうことを言っているのか。

(委員)

- ・おもてなしの心というのは言葉だけが先行して、具体的に何をするかというのが、きちんとついていないといけない部分であり、道の駅でなくても、ホテルでも「おもてなし」は言われている。
- ・紋別の道立流氷公園は子どもとお母さん方が遊んでいる。休みには娘たちもそこまで遊びに行っており、「遠軽には何で無いのだろう」と言われる。「女性のやすらぎ」というのが子どもにも繋がってくると思う。そのところをスキーのオフシーズンの時に出していければ、集客できるのではないかな。

(アドバイザー)

- ・夏のゲレンデは全く使っていないのか。

(委員)

- ・合宿のトレーニングで使ったり、自衛隊の留守中の家族を招待して、焼き肉をしたり、馬に乗って歩いたりというイベントをしている。スキー場としても夏の間にはやることは考えている。頂上からの展望も一つだし、夏冬通してリフトを動かす考えもある。

(アドバイザー)

- ・今、マウンテンバイクも人気があるし、徹底的に芝生をきれいにして裸足で遊べたりというのはどうか。

(委員)

- ・元ゴルフ場なので芝生はきれい。

(アドバイザー)

- ・夏の集客にチャンスがあるように感じる。



(委員)

- ・春から夏は女性のやすらぎで、冬はスキー一本に絞れば良いのではないかと。

(アドバイザー)

- ・シンプルに「ホーム・えんがる」、「アットホーム」と聞いて、お客さんと呼ぶのに食がメインと考えれば、炊き立てのご飯がいつも待っていると、わかりやすいものがないと、「アットホームなおもてなし」と言われても、全く通じないのではないかと。
- ・女性のやすらぎスペースと聞いて、普通は授乳室や食べ物のイメージ。それが充実しているから女性のドライバーが寄ってくるかは疑問。

(委員)

- ・この中で、絶対に譲れないのはスキー場。それから道の駅なのだからドライブイン機能。それをどう調和させるかということ。譲れないことは確認しておきたい。特徴はなくても、ドライバーが便利だと感じるのはコンビニエンスストア。ドライバーの利便性を考えると相当解決する。

(アドバイザー)

- ・佐呂間の道の駅の人気があるのは、ホタテを焼いて食べさせてくれるから、品揃えがいいから。この議論で一番欠けているのは、それを誰がやるのかということ。この中で当事者がいないので「それでは経営できない」という議論がない。「誰かがやってくれる」と考えているような感じがする。

(委員)

- ・「あなたやってよ」と言われたときに考えるのが、費用対効果で採算がとれるのかということ。そこまで議論が煮詰まっていない。準備しないとイケないが、そういう気持ちまで至っていない。

(アドバイザー)

- ・施設をつくることで、何人の雇用が生まれるから、町がいくら投資しても大丈夫というような、そういう何のために作るのかという議論は急がないとイケない。

(委員)

- ・物産協会でもやりたいと言っている方はいる。そのかわり、私たちがやりたい形を作らせてもらいたい。そういう面のスペースを確保してもらいたい。

(座長)

- ・あまり時間をおかないで、集中してやっていく。やるべきことがわかってきたので、事務局で今日の意見をまとめて、町長含めて方向性を決める。また、皆さんに声掛けして、3部会についても大至急煮詰めていく。
- ・誰が責任を持ってやるのかということを早急にやっていく。

・ 運営等に向けた今後の検討について 【資料3】

(座長)

- ・先ほどでた意見のまとめである。

(事務局説明)

- ・考える会における「産業・食部会」のルール作りと、今後のスケジュールについて説明。
- ・ルール作りを進めるにあたって、幹事会において、「産業・食部会 ルールに対する考え方(案)」を示し、これに基づいて考える会に参画していただく方を募集し、出店まで視野に入れた、やる気を持った方々から意見をいただきながら、レストラン・フードコートの必要性含めて協議をしていく。
- ・産業・食部会についてはハード面の概要を決める実施設計に反映させるためのリミットとして8月末と定めた中で、ルール作りを先行して協議を進めていく。
- ・体験部会、情報発信部会についても並行して、具体的に協議を進めていくという、スケジュールを予定している。

(座長)

- ・これをもとに、もう一歩進んだ方針を決めて、それを動かしていく。そうしなければ8月までに決ま



っていない。この後のスケジュールはどうするか。

(事務局)

- ・ある程度、検討協議会で話がまとまってくれば、部会の中で建物の配置だとか、もっと煮詰まった図面を示せるのではと考えていたので、少し間をおこうかと思っていたが、方針を固める部分もあるので、また声掛けして集まっていたら、確認させてもらいたいと考えている。

4. 閉会

(座長)

- ・流れとしては、連休明けに、町長含めて基本的な方針を決めていく。
- ・色々な意見があり難しいが、限られたスペースと予算と時間で、文化センターに先駆けてスピードアップして進めていかなければならない。

(配布資料)

資料1 管理運営方式に関するメリット・デメリット

資料2 遠軽IC道の駅基本構想(案)

資料3 産業・食部会 基本ルールに対する考え方(案)

参考資料1 第5回 (仮称) 遠軽豊里IC周辺施設基本計画検討協議会 議事概要

参考資料2 (仮称) 遠軽豊里IC周辺施設に係る提言書

参考資料3 道の駅基本設計図